

## カリフォルニア・プルーン収穫状況



### 2004年に次ぐ大減産、供給不足は必至

2013年産カリフォルニア・プルーンは春先の天候不順や、2年続けて豊作であった事の反動などにより、未曾有の減産となった2004年産に次ぐ不作年となり、前年比約40%となる7万～8万ショートトン(以下S/T)の収穫量になる見通しです。前年度からの繰越し在庫約5万6,000S/Tを加えた総供給量は12万～13万6,000S/Tに留まり、13万5,000S/Tの需要に対してギリギリの供給量であり、来シーズンへの繰越し在庫が殆ど発生しない見通しです。また、品質は良好で中心サイズは1ポンド(453g)あたり40～60粒となっており、例年よりも大粒傾向となっていますが、市場には小粒サイズに対しての不足感が早くも出ています。

何れにせよ総体的な供給不足をカバーするため、カリフォルニアのプルーンパッカーやトレーダー筋の間では、3～4月に収穫を迎えるチリやアルゼンチンなどの南半球産プルーンからの調達を検討する動きが活発になっています。しかしながら、両産地ともに春先の霜害の影響で減産となる見通しで、チリは例年7万5,000S/Tのところ約6万S/T、アルゼンチン産も3万ショートトンに対して1万5,000～2万S/T程度の収穫見込みと言われており、28万～29万S/Tと言われる世界の総需要を全てカバーする事は出来ないため、世界的な供給不足に陥る事は不可避と思われる。

またカリフォルニア・プルーンの作付面積減少は深刻な問題となっており、アーモンドやクルミなど価格が高騰する他の農産物への転作が続いているため、2013年は2000年の8万6,000エーカーよりも40%減反の5万1,000エーカーとなっており、また今期を最後に他の農作物へ転作する農家も散見されるため、来期は4万5,000エーカー程度にまで減少すると言われていています。更にノンベアリングエーカー(未収穫の農場地)は2008年以降ゼロが続いており、今後も収穫量は増えない事から、タイトな需給バランスが続き、当面、価格は高止まりするとの意見が大方を占めています。